

ナゴシドンの つなぎ手

平成29年度 報告書

主催
ナゴシドンのつなぎ手事業
肝付町（地域おこし協力隊）

編集・発行
ナゴシドンのつなぎ手事業
平成29年12月



目次

1	ごあいさつ ナゴシドンのつなぎ手事業 会長 平田神社 宮司	p. 4
2	“ナゴシドンのつなぎ手” 概要	p. 5
3	ナゴシドンと神舞の歴史・特徴	p. 6, 7
4	平成29年度の様子 練習・交流からナゴシドン当日・解散まで 参加者のことば 写真：練習と交流、毎日のふりかえり ナゴシドン当日	p. 8, 9 p. 10, 11 p. 12, 13 p. 14, 15
5	平成29年度 実施要項	p. 16, 17



ごあいさつ

青い空、青海原が広がる白砂輝く岸良海岸で、今年も伝統行事「ナゴシドン」で神舞が奉納されました。昨年に比べて一層深化したこの行事を目の当たりにし、今、感謝の言葉しか思い浮かびません。本当にありがとうございました。

昨年、全国から応募してくれた参加者たちの思いや教え手の情熱、支えてくださった方々のあたたかいまなざしが、この地に育つ子どもたちの心を揺さぶり、今年も地元の子もたちも参加してくれました。地元や全国から初めて集った皆さん、昨年に続き駆けつけてくれた方々、そして地元の子もたちが心を合わせた舞は、これからもずっと受け継がれていくであろう予感さえ感じさせる素晴らしいものでした。地域の皆さまからの多大なご協力もまたありがたく、心強く感じました。

文化財「平田神社の神舞」と「ナゴシドン」という行事を守ることは、郷土の歴史と先人たちの生き生きとした息吹を受け継ぐことであり、地域を守っていくことでもあります。私たちはこれからも「ナゴシドンのつなぎ手事業」を続け、地域を守り、地域を元気にしていきたいと考えています。

昨年は、道具も衣裳もままならない中での実施でしたが、今年は、明治安田クオリティオブライフ文化財団様の助成で整備することができました。末筆ながら衷心より感謝申し上げます。

ナゴシドンのつなぎ手事業 会長
榮倉 茂樹

はじめに「ナゴシドンのつなぎ手事業」にご協力頂きましたすべての皆様方に、平田神社宮司として心より感謝申し上げます。

今年で、この取り組みが発足して2回目となり、メディアの力もお借りして、地元だけでなく広く世間にも「ナゴシドン」を知って頂く事ができるようになりました。嬉しさと同時に、一神社を預かる宮司としての責任もひしひしと感じております。

自分らしく、自分なりに、地元根差した神社のあり方を追求しながら、伝統行事「ナゴシドン」を皆様と一緒に「明るく楽しく」をモットーに守り続けていきたいと思っております。

県外の方々にもご参加頂くようになり、地元にとりましても刺激になり、村おこしの機運を高めるきっかけとなった事は大変有意義だと思っております。

毎年舞手が代わる事も変化があり、新鮮さもあって、見る側としても楽しみではないでしょうか。

基本は守りながら新しいものも取り入れていくという形で、伝統行事を後世にも継ぎ、繋げ、のこしていきたいと思っております。

今年も大成功の「ナゴシドン」を、陰に日向に支えて頂きました多くの皆様方、本当にありがとうございました。

ナゴシドンのつなぎ手事業 顧問
平田神社 宮司
上 蘭 久美子

“ナゴシドンのつなぎ手”について 盛夏を彩る伝統行事 ナゴシドン

鹿児島県大隅半島の太平洋側に位置するまち、肝付町。山と海にかこまれたこの町の片隅で受け継がれてきた伝統行事が、ナゴシドンです。盛夏の白い砂浜で、青々とした山と海を背に600年以上受け継がれてきた神舞を披露します。

名前の由来

“夏越祭”が鹿児島風になまりいつの頃からか“ナゴシドン”と呼ばれるようになりました。

また地元の人は、このお祭りのシンボルともいえる猿田彦命の神面三体にちなみ、行事そのものを“ハナタゴドン”と呼んだりもします。

日程

毎年8月14日
午後から
夕方にかけて

特徴

- ・浜下り
- ・神舞奉納
- ・茅繩くぐり

ナゴシドンの詳細：p.6~7

町内外から ひろく“つなぎ手”を募る

永らく地域住民によって地道に受け継がれてきたナゴシドンですが、近年は少子高齢化の影響で、担い手が不足しています。

そこで、この行事と、町指定文化財でもある神舞を新たなかたちで受け継いでいこうという考えから、町内外から広く参加者を公募する活動を平成28年度に始めました。神舞の舞手や運営のお手伝いとして参加する方には、ただ神舞の練習や雑用をこなすだけでなく、岸良をじっくり味わってもらいたいとも考えました。

この考えに共感してくださった地域の方々や、参加者の受け入れや神舞の練習、ナゴシドン当日の運営にあたり広く協力して下さるようにもなりました。

よそから参加してナゴシドンや岸良を発見し、つないでくださる人。地元から関わることで地域の魅力を再発見し、つないでくださる人。そんな“つなぎ手”みなさんのおかげで、“ナゴシドンのつなぎ手”は支えられています。

平成28年度、初めての年

新たな取り組みの初回となった昨年度は、地元紙やインターネットを通じて全国から9名の若者が集いました。

午前・午後の練習に、地域のみなさんとの交流、深夜まで語ったふりかえりの時間、そして本番当日…。約1週間、毎日盛りだくさんの日程で、受け入れ側として至らない点も多々ありましたが、参加者は神舞の練習や地域住民との交流を通して、多くのものを受けとったと最後に話していました。

また、参加者が神舞に真摯に向き合う姿や、地元の自然や食に素直に喜ぶ様子を見て、地域住民もまた何かしらの得たのではないかという手ごたえを感じました。

そして今年度、初回の“つなぎ手”のみなさんの追い風をしっかりと受けて無事おこなうことができました。



岸良の盛夏を彩る伝統行事

ナゴシドンと神舞の歴史・特徴

600年にわたり受け継がれてきたお祭り

ナゴシドンで披露する町指定無形民俗文化財「平田神社の神舞」は、もとは四十九所神社（肝付町高山）から伝習されたものです。しかし当時のことを記した資料は焼失するなどして現存せず、平田神社の創建の起源もまた明らかではありません。

しかし平田神社には、1407年（応永14年）に肝付氏11代兼元が神社を修造した際の棟札の記録があるため、その頃から神社は領主から崇められており、神舞もまたその頃から伝承されていたのではないかと考えられます。

長い時代を経て、担い手が減り、いくつかの神舞が途絶え、行事が簡略化されるようになった今も、盛夏のナゴシドンと正月のテコテンドンは有志によって受け継がれています。



左上：旧内之浦町誌
右上：神面三体
左下：神舞に使用する面
中下：ナゴシドンの神事(2013年)
右下：ナゴシドンの汐がけ(2013年)



特徴1 砂浜で神舞を披露する

いつからなのか、または最初からなのか——。記録がないため起源は分かりませんが、岸良のナゴシドンでは、岸良の浜で神舞を披露するという形が永らく定着しています。旧内之浦町誌に「本来徒歩で移動する浜下りを自動車でおこなった」という記述があるため、それよりも前からこのようにおこなっていたと考えられます。

浜下り

平田神社の三体の祭神をハナタコドンの神面三体に宿らせ、浜まで連れて行く行程です。薙刀舞の舞手が先頭に立って露払いをおこない、また道中の要所でお祓いをする意味があります。

古来の浜下りの道のり

- ① **平田神社**
祭神を神面にうつした後、御神幸の列を整え、笛と太鼓の音色と共に浜へ向かいます。神社を発つ際、また道中すべての分かれ道において、先頭に立つ薙刀舞の舞手が薙刀を左右に3回払い、露払いをします。
- ② **石踊橋**
橋の手前で止まり「地はモヨウなり、風なら空を吹け」となえ、笛や太鼓を鳴らさずに渡ります。昔からここで音を立てると「石が踊る」つまり、洪水や嵐が起こると言い伝えられているためです。
- ③ **川端どん（現在は省略）**
現在の駐在所の辺りを指し、初代岸良郵便局長・川端四郎の住まいでした。以前はここで神饌を受けて休憩をし、東振興会のお祓いをしていました。
- ④ **もいどん（現在は省略）**
田んぼの中にある木（ニ森）で、祖先霊が祀られています。以前はここに立ち寄り、水神に豊作を祈願していました。
- ⑤ **岸良海岸**
神面三体に汐がけをして海神を宿らせ、祭壇に立てたら準備完了です。

平田神社の神舞

四十九所神社から伝えられた神舞。町の無形民俗文化財に指定されているのは次の8つのみですが、もともとはそれ以上存在したという記録があります。以前はナゴシドンだけでなく、テコテンドンなどのお祭りやお祝いごとの折にも披露され親しまれていました。

1. 座着舞（途絶）
2. 鬼神舞（途絶）
3. 山の神舞…勝利の風をふかせる
4. 田の神舞（途絶）
5. 四方鬼神舞（途絶）
6. 薙刀舞…悪魔退散を祈る
7. 十二人剣舞…荒ぶる神をはらう
8. 岩戸舞（途絶）



左上：浦安の舞(2015年) / 右上：山の神舞(2015年)
左中：薙刀舞(2014年) / 右中：十二人剣舞(2012年)
下：茅縄くぐり(2016年)

特徴2 茅縄くぐり（茅の輪くぐり）

各地の夏越祭でよく見られるのは、垂直に立てられた茅の縄の輪の中を参拝者がくぐるといった形ですが、ナゴシドンでは茅の縄を水平に四角く張り、その下を観客が一斉にくぐります。



特徴3 お盆という時期

正式には旧暦の六月晦日におこなわれる夏越祭ですが、現在の岸良のナゴシドンの日には8月14日。神社関係者によれば、地区の人口が減り賑わいが薄れていく中、せめて帰省や観光のためお盆に訪れる人たちに楽しんでもらえるようにという考えから、この時期に変更されたそうです。

平田神社の神舞とナゴシドンの変遷

近年継承されている主な神舞の動向

年	山の神舞	十二人剣舞	薙刀舞	浦安の舞
??年	四十九所神社から神舞を伝習する			
1407年	肝付氏11代兼元が神社を修造した記録がある 岸良氏・肝付氏の時代にはほかにも修造が行なわれた記録があり、領主の崇拝があつたことが分かる			
1950年	薙刀舞が途絶える			
1964年	旧内之浦町の無形民俗文化財に指定される (現在：肝付町指定無形民俗文化財)			
1972年	十二人剣舞が地元小学生に伝承される			
1996年	十二人剣舞が途絶える			
1983年	この時すでに、浜下りは省略されていた			
1988年	山の神舞が新たな舞手へ継承される			
1995年	薙刀舞が新たな舞手へ継承される			
1996年	十二人剣舞が子ども3名により復活する			
2011年	山の神舞や十二人剣舞は舞手の不足のため 薙刀舞は舞手の高齢化のため披露が難しくなってきたことから、浦安の舞が取り入れられる			
2012年	十二人剣舞が地元中学生6名により披露されたのを最後に途絶える。その後披露されるのは山の神舞・薙刀舞・浦安の舞のみとなる			
2016年	「ナゴシドンのつなぎ手」が始まる			

この年表は、下記資料から判明した事柄を要約し、記載しています。
・内之浦町誌編集委員会『内之浦町誌』鹿児島県肝付郡内之浦町役場・内之浦町教育委員会、2003.03
・過去の南日本新聞記事、旧内之浦町報、肝付町報
・平田神社宮司や神官、神舞の教え手、岸良地区住民の語り など

平成29年度の様子

練習・交流からナゴシドン当日・解散まで

「ナゴシドンのつなぎ手」としては2回目の取り組みとなった今年は、地元からも積極的に参加者を募りました。

初めての参加者、昨年にひきつづき参加して下さった方、昨年見て「やってみよう」と思って下さった地元の小学生、「うちの子ども」と言ってくれた昔の舞手、「また手伝うよ」と手を挙げてくれた地元のみなさま、「今年も楽しみにしてるよ」と後押しして下さった方々のおかげで、練習と交流、そしてナゴシドン当日・解散までを無事に終えることができました。

参加者概要

・山の神舞	小学生男子1名(町内、初)
・薙刀舞	男性1名(岸良、初)
・十二人剣舞	小学生男子2名(岸良、初) 中学生女子1名(岸良、初)
	男性1名(町内、2回目)
	男性2名(町外、2回目)
・浦安の舞	女性2名(町外、初)
・浜下りの太鼓	男性1名(町外、2回目)
・お手伝い	小学生女子1名(岸良、初) 女性1名(町外、初)

日程

	8/9(水)	8/10(木)~13(日)	8/14(月)	8/15(火)
		朝食		
AM		練習 ②	最終確認	解散式 ④
	初参加者集合	昼食 ③	解散	
PM	オリエンテーション ①	練習 ②	本番 ⑤	
		夕食 ③		

1 オリエンテーション 平田神社とナゴシドンのお話

この日、肝付町基幹集落センター岸良会館に集った初参加者たち。

神舞の練習に入る前に、滞在中の日程や、「ナゴシドンのつなぎ手」で顧問を務める平田神社宮司より神社の歴史やナゴシドンの概要を聞きました。

3 地元のみなさんとの交流

食事の際や練習の合間に、地元のみなさんと一緒にご飯を食べたり、食事を準備して下さる方々とおしゃべりしたり…。そんな時間をいくつか設けました。

「岸良は初めてだ」という参加者もいる中で、ただ神舞の振りを覚えるだけでなく、それを受け継いできた人・見守ってきた人の想い、文化を育んできた海や山の魅力に触れたいので、この行事に携わってほしいと考えたためです。



2 神舞の練習

毎日午前・午後の各2時間程度の神舞練習では、教え手から細かく教わるほか、初めて参加する小中学生が昨年参加したお兄さんたちからアドバイスを受けることもありました。

また、12日の午後にはリハールを実施。浜下りの行程と、岸良海岸での砂の感触を確かめました。

地域の方々から差し入れをいただいたおかげで、暑い中での猛練習を乗り切ることができました。

4 毎日のふりかえりと解散式

10日・11日・13日の夕食の前、町外参加者と事務局でその日のことを振り返る時間を設けました。また、全日程を終えた解散式でも、滞在中の感想を共有しました。

この時に出た言葉は、参加者同士だけでなく事務局にとっても貴重なものです。

解散式でのアンケートの回答：p.10~11
滞在中の練習・交流の写真：p.12
毎日のふりかえりでの言葉：p.13

5 ナゴシドン当日の行程

- 14:00 平田神社ではじまり
- 14:20 浜下り(御神幸)
- 15:00 岸良海岸到着
- 15:15 汐がけ
- 15:30 神事
- 15:40 神舞奉納
 - ・浦安の舞
 - ・山の神舞
 - ・薙刀舞
 - ・十二人剣舞
- 16:15 茅縄くぐり
- 17:00 平田神社でおしまい

まずはじめに、神社の祭神である
・大山祇神(おおやまつみのみこと)
=山をつかさどる神さま
・金山彦命(かねやまひこのみこと)
=鉾山の神さま
・猿田彦命(さるたひこのみこと、ハナタゴドシ)
=天孫降臨の際に道案内をした神さま
を、ご神体の鏡から猿田彦命の神面三体にうつします。

平田神社から岸良海岸までの約2.7kmの道のりを歩いて移動する浜下り。青い空と山々を背に、白い衣装を着た舞手や宮司、神官、教え手たちが笛と太鼓の音色と共に田畑の中を歩いてゆく様は、まさに日本の原風景のようです。

平和を祈る浦安の舞、四方に矢を放ち勝利を呼び寄せる山の神舞、薙刀を大きく回し振り悪を打ちはらう薙刀舞、舞手たちの息の合った振りが見事な十二人剣舞。そして、高らかに鳴り響く笛と太鼓の音色。神社の祭神と海神の依代となった神面三体の前でこれらを披露することで、地域安泰と五穀豊穡を祈願します。

岸良海岸に着いてすぐは、神面三体は太平洋側を向けて祭壇に立っています。その後、波打ち際まで神面を持っていき、神の葉で海水を神面にかけると、海神が神面に宿ります。こうして汐がけを終えてはじめて、海を背にして神面を祭壇に立てるのです。

平田神社へ戻り、祭神を神面三体からものご神体に戻したらナゴシドンは終わりです。

観客たちも一緒になって茅縄の縄を3往復半くぐる茅縄くぐり。それまでの半年間の穢れをおとし、その後半年間の無病息災を祈ります。

当日の写真：p.14~15

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団 平成29年度 地域の伝統文化保存維持費用助成に採択されました

全国各地の伝統芸能に助成をおこなっている明治安田クオリティオブライフ文化財団より助成金をいただき、衣装、神楽鈴、剣、太鼓、笛といった、古く壊れやすくなったり不足していたりしていた衣装と用具を新調することができました。「平田神社の神舞」とナゴシドンのこれまでの継承活動と新たな取り組みについて評価していただいた結果だと思ひ、来年度以降の活動の弾みになってまいります。

NHKニュース「おはよう日本」で 全国で紹介されました

NHK鹿児島「情報WAVEかごしま」で8月29日に放送されたものと同じ内容を9月6日の「おはよう日本」で全国で紹介していただきました。昨年は「地元の教え手とよそからの参加者の交わり」に焦点を当てて取り上げていただきましたが、今年は「父が息子に神舞を教える、親子物語」でした。

平成29年度の様子

参加者のことば

参加者のみなさんに最後に書いていただいたアンケートの内容です。
個人を特定できる可能性がある部分は、なるべく省略しています。

参加前に期待していたこと

- ・岸良との再会
- ・岸良の方々との再会
- ・そして、ナゴシドンとの再会
- ・今年もナゴシドンに参加できる
- ・今年もナゴシドンに参加できる
- ・昨年の参加者にまた会える
- ・地元の方々とのより多く深い関わり
- ・自身の経験を踏まえ、よりよいサポートをする **★1**
- ・食事 **★2**
- ・今（解散式）の状態
- ・みんな楽しく時間を過ごすこと
- ・伝統芸能の心を学ぶ
- ・地域内外の人たちとの交流
- ・地域の人たちとの触れ合い
- ・同じ目的に向かう、連うバックグラウンドの仲間との出会い **★3**

神舞について

- ・舞手が昨年と変わることで、舞の雰囲気が大きく変わることに驚きました。
- ・全員とても努力をしているのがよく見えて、全体的にすばらしい祭りになっていったと思います。
- ・2年目ながら、舞に関しては難しいところは難しく、忙しいところは忙しく感じ、やはりまだまだだと感じました。
- ・子どもたちと一緒に練習しましたが、しっかり言うことを聞いてくれる場面もあれば、練習中にふざけることも少しあったのでそこは甘かったかなと思います。 **★4**
- ・昨年の経験を活かして、子どもたちと一緒につくりあげることができました。もう少し一体感をつくれればなおよかったと思います。 **★5**
- ・当日の流れを全体でやってみる日があると、より安心してのぞめるのではと思いました。

体験・交流について

- ・どれも印象に残りました。たくさんの方々、自分たち参加者のためにひとつひとつ一生懸命準備して、さらにあたたかく迎えてくださったこと、とても感謝しています。
- ・浜サロンでのおしゃべりや寿ひまわり会との昼食を通して自分の祖父母が生きていた時の感覚を思い出し、懐かしく思いました。
- ・昔の話を聞いたことで、ナゴシドンの当時の姿を想うことができ、とてもよかったです。最初はなかなか自分から話し出すことが難しかったので、浜サロンでの折り紙は有効でした！ **★6**

滞在中の対応・待遇について

- ・昨年に引き続き、おいしい料理がなにより楽しみでした。3食をこんなにたたくく食べたのは久しぶりでした。
- ・子どもたちにだいぶかわいがられました。楽しかったです。
- ・温泉最高！ 食事最高！ 練習に集中できました。
- ・参加者同士の交流が去年より多少なく、ちょっと残念でした。 **★7**
- ・「お手伝い」として参加したので、もっとサポートができればよかったです。 **★8**

事務局コメント

★1
2年目の参加者が神舞だけでなくサポートにも意欲をもってくださっていたこと、大変心強かったです！

★2
滞在中の手作りの食事は、去年の参加者にとってはかなり印象深かったようです。

★3
伝統芸能を学びたいから、地方の現状を知りたいから、昔親戚が住んでいたから、などなど参加者の動機も様々です。そんな人たちが出会うきっかけになって、うれしいです。

★4
練習中だけでなく、休憩や食事の際も子どもたちは参加者のお兄さん・お姉さんたちにべったりでした。練習の時は真剣に練習し、休むときはしっかり休む。そんなメリハリをつけられるように、改善してまいります。

★5
“毎日のふりがえり”の時に、「担う神舞は違っても、同じ舞手。練習中も拍手を送り合い、高め合おう」という意見が出たことがありました。「全員で気持ち良く成功させたい」という強い気持ちが感じられた出来事でした。

★6
浜サロンを訪ねた際、限られた時間内でサロンのみなさんと参加者たちの距離を縮めるため、まず「ハナタコドン」の折り紙をみんなで折りました。参加者たちが直前に折り方を練習し、サロンのみなさんに教えてくださったおかげで、初対面ながら和やかな雰囲気があったと思います。

★7
これはほかにも何人かから挙がっていた感想です。練習と交流と休憩と、どうするのが一番いいバランスなのかこれからも模索してまいります！

★8
“お手伝い”として参加してくださった方にうまく役割をふることができず、反省でした…。

総合満足度

- ・初めて参加して、色々なことや大変さを知れた。踊りが難しかった。もっとうまく踊りたかった。次も参加したい。
- ・一緒に食事ができなかつたのが残念だった。また来年もやりたい。
- ・最初に動画を見たときは覚えられるか不安だった。でも練習したらきちんと覚えられた。
- ・止める動き、歌が難しかった。
- ・砂浜は足が動きずらくて、体育館でやる時と全然違った。とても楽しかったし、充実した時が過ごせた。来年も参加したい！

- ・「ナゴシドンのつなぎ手」は、岸良とのつながりを切らさないための大事な行事となっています。
- ・主催者側だけでなく支えてくださった方々にも本当に感謝しています。毎日食事を作ってくださった方々、演武を教えてくださいました。ナゴシドンの話などをしてくださった方々など、本当にたくさんの方々に支えられて今年も無事に終えることができました。こんなにたくさんの方々のつながりにまで発展し、支えられることになるとは思いませんでした。
- ・初参加組と去年からの参加組、運営スタッフや受け入れてくださった方々がとても優しく楽しく、ここに来るまでの不安だった気持ちが無駄に思えるほどでした。
- ・想像以上に地域の人との触れ合いがあり、ナゴシドンという祭をおこすにあたってはそれが本当に大事だったのだとわかりました。元気で、のどかな人々…。その反面、失われてゆくすばらしい文化、生き返らせようとする人々、反対する人々…。少々軽い気持ちで参加を希望していたなあ、と目が覚めるようなプロジェクトでした。
- ・きっと日本の、世界のあらゆるところで同じことが起きているんだらうなあと思いを馳せつつ、このナゴシドンが1つの成功例となりますよう、その流れに私も乗った人として、考えていきたいと思っています。
- ・2年目、地元の子どもたちが参加し、よりよいナゴシドンになったと思います。初参加の方、2年目の方、地元の方と、いい雰囲気の本番にのぞめました。来年もよりよいものになると確信しています。
- ・いまだに終わったという実感がもてません。それほど楽しく時が過ぎました。
- ・たくさんの方の協力によって無事ナゴシドンを終えることができました。昨年からの参加者が練習をひっぱってくれ、サポーターの方が練習しやすいようにお手伝いをしてくださり、子どもたちが自分たちの言うことをちゃんと聞いてくれました。そして地域の方が交流の時やお疲れさま会でとても良くしてくださり、食事もとてもおいしかったです。様々な人に支えられて、ナゴシドンは行われているとあらためて感じました。

★
十二人剣舞に参加してくださった岸良の小中学生のみなさんの感想です。体育館での練習も、砂浜での本番もとても暑かったでしょうし、難しいところもあったようですが、「また来年も!」と言ってくださってとても嬉しいです。

★
今年も色々な人が関わりあいながらつくりあげられた、ナゴシドン。去年の雰囲気を知っている人が再び参加して下さり、その熱意に刺激を受けたかのように初参加者や地元の小中学生たちも積極的に練習や交流に取り組んでくださいました。

また、神舞の教え手や練習中に差し入れをもって来てくださる人、毎日の食事を作ってくださいる人、交流に参加してくださいる人、ナゴシドン当日の準備をしてくださる人たちが、参加者たちに気さくに接してくださったことも、参加者たちの緊張をほくし、本番に向けて気持ちを高めることに大きく寄与したと思います。

残念ながら事務局の段取りが悪いところもあり、来年以降改善していきたいと考えています。しかしそんな不手際を上回るほどの参加者の熱意と地元のみなさんの応援があったからこそ、このアンケートは前向きな言葉ばかりになったのだと思います。

みなさん本当に、ありがとうございました。

平成29年度の様子

練習・交流の様子



神舞の練習



上 平田神社宮司のお話
下 十二人剣舞の歌を習い中



浜でのリハーサル



上 デイサービスきらでの
そらめん流しランチ
下 浜サロンでの折り紙交流会

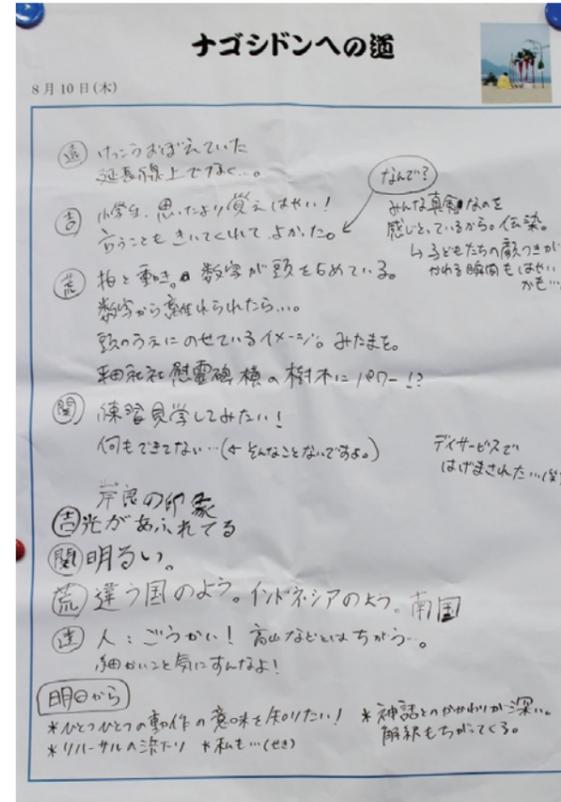


上 寿ひまわり会とのもちよりランチ
下 陸の宝島・岸良と地域みなさんと
海と山の幸バーベキュー

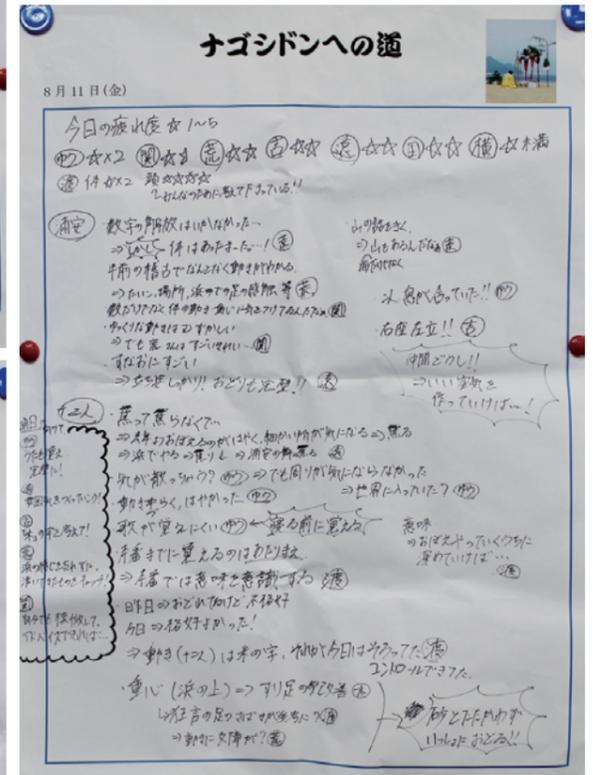
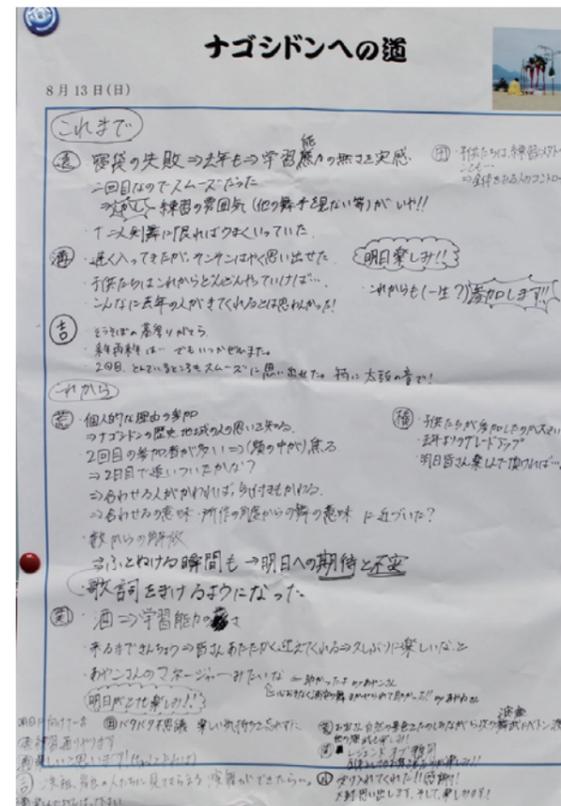


上下 毎日の食事を準備して下さった
岸良おとめ工房と地域みなさん

毎日のふりかえり



上 8月10日
中 8月11日
下 8月13日



平成29年度の様子
ナゴシドン当日の様子



14:00 平田神社ではじまり



14:30 浜下り



15:00 岸良海岸に到着
15:15 神面三体の汐がけ、神事



©中野

15:40 神舞奉納 左上：浦安の舞、右上：山の神舞、左下：薙刀舞、右下：十二人剣舞



©丸喜

16:15 茅縄くくり



©中野



夜 おつかれさま会(直会)

平成29年度

「ナゴシドンのつなぎ手」実施要項

1. 目的

- (1) 鹿児島県肝付町岸良地区で受け継がれる伝統芸能「ナゴシドン」の継承
- (2) 伝統芸能の継承に向けた地区内外の人的交流による地域の活性化

2. 内容

地域伝統芸能・文化に興味のある町内外の若者を、「平田神社の神舞の舞手」または「運営ボランティア」として募集する。「神舞の舞手」参加者は、地域住民の指導のもと、岸良地区に滞在しながら神舞の習得に向けた練習を行う。そして8月14日の「ナゴシドン」で舞手を務める。また同時に、地域住民との交流を通して地域文化の理解に努める。「運営ボランティア」参加者は、スタッフの指示のもとで「神舞の舞手」参加者の練習や滞在中のサポートにあたる。また同時に、地域住民との交流を通して地域文化の理解に努める。

3. 主催

ナゴシドンのつなぎ手事業・肝付町（地域おこし協力隊）

4. 実施期間

参加者の受け入れ：平成29年8月8日（火）～15日（火）
※実施期間は上記を原則とするが、個々の相談に応じる。

5. 実施内容

- (1) 参加者の募集・受け入れ (2) 神舞伝授体制の準備 (3) 用具などの整備
- (4) 継承用映像記録の作成 (5) 参加者への神舞伝授 (6) ナゴシドン運営
- (7) 参加者へ活動のフィードバックを依頼

6. 募集・事業について

	神舞の舞手に参加する	運営ボランティアに参加する
内容	<ul style="list-style-type: none"> ① ナゴシドンで披露する町指定文化財「平田神社の神舞」のうち、希望する神舞の練習に参加する ② 教え手やほかの地域住民との交流を通じて岸良の自然・食・人を満喫する ③ ナゴシドン当日に神舞を披露する 	<ul style="list-style-type: none"> ① 各種プログラムを実施する際のサポートをおこなう 例：神舞練習時の会場準備、給水、食事の配膳、片付け、毎晩の「1日のふりかえり」ナゴシドン当日の給水、記録用写真の撮影 など ② サポートをおこなう過程で岸良の自然・食・人を満喫する
対象	小学校5年から30代程度までの男女 但し、下記条件を満たすこと ① 心身ともに健康であること ② 定められたプログラムに積極的に参加できること ③ 他の参加者や神舞の教え手、地域住民等との交流に抵抗がないこと	性別・年齢不問 但し、下記条件を満たすこと ① 心身ともに健康であること ② 定められたプログラムに積極的に参加できること ③ 他の参加者や神舞の教え手、地域住民等との交流に抵抗がないこと
人数	<ul style="list-style-type: none"> ・山の神舞 男性1名 ・薙刀舞 男性1名 ・十二人剣舞 男性12名 ・浦安の舞 女性2名 	若干名
参加費	おひとり 1万円 集合した時にいただきます 体験料および滞在に係る経費をまかなうために活用させていただきます （宿泊・食事・温泉入浴・傷害保険等） ただし、主に地元からの参加ハードルを下げるため、下記のとおり定めます ・練習およびナゴシドン当日にのみ参加する場合、参加費は無料 ・合宿に参加希望で、寝具持参かつ集合・解散時の送迎不要の場合、参加費は5千円	

7. 応募について

- (1) 応募メチ 平成29年7月14日（金）
- (2) 応募方法 HP (<http://www.nagoshidon.com>) の応募フォームに必要事項を記入したうえで送信する。

8. 利用施設等

- (1) 宿泊 肝付町基幹集落センター岸良会館（肝付町岸良482-1）
- (2) 入浴 湯治湯の郷 湯の谷温泉（肝付町岸良1603-20）
- (3) 食事 原則、宿泊先で自炊。

9. 注意事項

- (1) 運転免許を取得していない、遠方から来るなどの理由から各自で集合場所へ来ることが困難な場合は相談に応じます。
- (2) 参加者の傷害保険加入は主催者が行ないます。
- (3) 本企画の目的は
 - ① 鹿児島県肝付町岸良地区で受け継がれる伝統芸能ナゴシドンの継承
 - ② 伝統芸能の継承に向けた地区住民と都市住民の交流による地域の活性化
 です。伝統芸能としてのナゴシドンを通して、岸良という地域の魅力や伝統を受け継ぐ地域の取組について知って欲しいという趣旨で開催するものです。特定の宗教を普及するものではありません。

10. 問い合わせ先

ナゴシドンのつなぎ手事務局
〒893-1402 鹿児島県肝付郡肝付町南方2643
肝付町役場内之浦総合支所 産業創出課内
TEL 0994-67-4531（産業創出課直通）
E-mail nagoshidon@gmail.com
HP <https://www.nagoshidon.com>

平成29年度ウェブサイト

<https://www.nagoshidon.com>



平成29年度参加者募集用チラシ



主催
ナゴシドンのつなぎ手事業
肝付町（地域おこし協力隊）

協力
参加者との交流・食事 NPO法人 陸の宝島・岸良、カフェかぐら、岸良おとめ工房、
寿ひまわり会、デイサービスきしら、浜サロン、ほか 岸良地区のみなさま

宿泊 岸良地区基幹集落センター岸良会館、榮倉家
入浴 湯治湯の郷 湯の谷温泉（内之浦森林組合）

練習場所 旧肝付町立岸良小学校 体育館

岸良海岸会場整備 （有）甲斐工業
当日音響 肝付町役場
当日保安 肝付警察署

協賛
岸良地域づくり協議会
川口振興会、港振興会、本地振興会、下西振興会、上西振興会、大原振興会、浜振興会
岩越自動車（株）、（有）榮倉組、鹿児島なべしま、肝付町観光協会
肝付町役場内之浦総合支所職員のみなさま

助成
明治安田クオリティオブライフ文化財団

写真提供
過去の写真 きもつき情報局（NPO法人 きもつき情報化推進センター）
本年度の写真 中野博志、丸喜翔太

※順不同、敬称略
※協力・協賛については、個人名の記載を控えていただきました
このほかにも、練習や交流、ナゴシドン当日など、
たくさんのご協力をいただき、誠にありがとうございました

地元の川から流れこむ淡水
遠く
空から降ってくる雨水

地元の子どもや大人たち
速くからやってくる人たち
見に来てくださる人たち

岸良の海が
いろいろな水がまざりあって
あざやかな青色になるように

ナゴシドンも
いろいろな人が出会うことで
ゆたかな空間がつくりあげられる

これからも
そんなふうに
つながっていきますように

おがんと
夏越祭
Nagashidom

